

『創造都市を創造する』

56. [新産業] 重点シンポ『コンテンツと地域再生1』(2008年12月3日)

「コンテンツと地域再生 1

ー無形の世界遺産とデジタルコンテンツによる地域発展」

【日時】2008年12月3日(水) 18:30~21:00

【会場】大阪駅前第2ビル6階・大阪市立大学文化交流センターホール

【参加登録不要、参加料無料、参加自由】

【主催】大阪市立大学大学院創造都市研究科

【運営企画】大阪市立大学創造都市研究科重点研究・新産業班+地域再生班

【後援】近畿経済産業局(予定)、(財)デジタルコンテンツ協会、石州和紙協同組合

【趣旨】

かつてデジタルアーカイブを地域で構築する事業(活動)が盛んであったが、国の政策の終了により、いったんは休止(または廃止)した。しかし、近時、デジタル技術の急速な発展と機器の広範な普及により、その事業の再評価が始まっている。ところで、地域コンテンツの例として、島根県太田市にある石見銀山は、その世界遺産化によって地域の観光需要が何倍も高まった。さらに来年には、無形の伝統文化・芸能・技能などの世界文化遺産化も予定されている。島根県では石州判紙が登録予定である。これらは、地域の再生にとってまたとない追い風であろう。このように、これからは有形の世界遺産はほぼ終わり、無形の世界遺産の時代に入るといわれている。そこで、本シンポジウムでは、島根県の具体的な事例を通して、地域の中に眠っている文化資本や自然資本をデジタルコンテンツ化することによる地域経済社会の再生戦略を提言する。

【プログラム】

開会挨拶 明石芳彦(あかしよしひこ)大阪市立大学大学院・創造都市研究科教授・研究科長

趣旨説明 近勝彦(ちかかつひこ)大阪市立大学大学院・創造都市研究科教授

パネリストからのご発表

パネルディスカッション

【パネリスト】

山本純氏(やまもとあつし)(財)デジタルコンテンツ協会企画調査部部長代理

久保田彰氏(くぼたあきら)石州和紙協同組合代表理事

黒木啓良氏(くろきひろよし)近畿経済産業局コンテンツ産業支援室

【コーディネータ】近勝彦(ちかかつひこ)大阪市立大学大学院・創造都市研究科教授

【司会】小長谷一之(こながやかずゆき)大阪市立大学大学院・創造都市研究科教授

【パネリスト・コーディネータプロフィール】

○山本純(やまもと・あつし)氏

北海道八雲町生まれ、静岡県天城湯ヶ島町育ち。関西大学経済学部卒業。(財)デジタルコンテンツ協会企画調査部部長代理。日本電子専門学校2008年度講師。主な調査研究に、ソフトウェア著作権、ソフトウェア特許、コンテンツ市場統計、コンテンツ著作権、パブリシティの権利がある。

○久保田彰(くぼたあきら)氏

石州和紙協同組合代表理事。1950年島根県三隅町に生まれる。亜細亜大学経営学部卒業後、父「保一」を師として手すき和紙製造に従事する。(社)島根県物産協会理事、(財)しまね国際センター経営委員など歴任。長年石州和紙の文化伝承に多大な貢献をされてきた。来年石州判紙が無形の世界文化遺産に登録されるにあたり、そのまとめ役をされた。

○黒木啓良（くろきひろよし）氏

1990年通商産業省近畿通商産業局入局（現：経済産業省近畿経済産業局）、2004年大阪市立大学大学院創造都市研究科（都市ビジネス専攻）に入学・2006年修了。現在、近畿経済産業局コンテンツ産業支援室に所属し、コンテンツビジネス推進を担当。

○近勝彦

小樽商科大学・島根県立大学などを経て、現在、大阪市立大学大学院創造都市研究科・教授。研究テーマは、情報投資の理論やコンテンツの経済的価値分析など。コンテンツに関しては、デジタルコンテンツの多面的な活用による地域活性化を構想し社会実験を重ねている。著書に『IT資本論』『web2.0的成功学』など多数。

Contents

コンテンツと地域再生 1 X Region

無形の世界遺産とデジタルコンテンツによる地域発展

【日時】2008年12月3日(水) 18:30~21:00

【会場】大阪駅前第2ビル6階・大阪市立大学文化交流センターホール

→ <http://www.gscoc.osaka-cu.ac.jp/access/>

【参加登録不要、参加料無料、参加自由】お問い合わせ→ konagaya@zc4.so-net.ne.jp

【主催】大阪市立大学大学院創造都市研究科

【運営企画】大阪市立大学創造都市研究科重点研究・新産業班+地域再生班

【後援】近畿経済産業局(予定)、(財)デジタルコンテンツ協会、石州和紙共同組合、他

【趣旨】かつてデジタルアーカイブを地域で構築する事業(活動)が盛んであったが、政策の終了により、いったんは休止(または廃止)した。しかし、近時、デジタル技術の急速な発展と機器の広範な普及により、その事業の再評価が始まっている。ところで、地域コンテンツの例として、島根県太田市にある石見銀山は、その世界遺産化によって地域の観光需要が何倍も高まった。さらに来年には、無形の伝統文化・芸能・技能などの世界文化遺産化も予定されている。島根県では石州判紙が登録予定である。これらは、地域の再生にとってまたとない追い風であろう。このように、これからは有形の世界遺産はほぼ終わり、無形の世界遺産の時代に入るといわれている。そこで、本シンポジウムでは、島根県の具体的な事例を通して、地域の中に眠っている文化資本や自然資本をデジタルコンテンツ化することによる地域経済社会の再生戦略を提言する。

【プログラム】

○開会挨拶 明石芳彦(あかしよしひこ) 大阪市立大学大学院・創造都市研究科教授・研究科長

○趣旨説明 近勝彦(ちかかつひこ) 大阪市立大学大学院・創造都市研究科教授

○パネリストからのご発表

○パネルディスカッション

(1) 山本純(やまもとあつし)氏 (財)デジタルコンテンツ協会企画調査部部長代理

(2) 久保田彰(くぼたあきら)氏 石州和紙協同組合代表理事

(3) 黒木啓良(くろきひろよし)氏 近畿経済産業局コンテンツ産業支援室

【コーディネータ】近勝彦(ちかかつひこ) 大阪市立大学大学院・創造都市研究科教授

【司会】小長谷一之(こながやかずゆき) 大阪市立大学大学院・創造都市研究科教授

【パネリスト・コーディネータプロフィール】



○山本純(やまもと・あつし)氏 北海道八雲町生まれ、静岡県天城湯ヶ島町育ち。関西大学経済学部卒業。(財)デジタルコンテンツ協会企画調査部部長代理。日本電子専門学校2008年度講師。主な調査研究に、ソフトウェア著作権、ソフトウェア特許、コンテンツ市場統計、コンテンツ著作権、パブリシティの権利がある。



○久保田彰(くぼたあきら)氏 石州和紙協同組合代表理事。1950年島根県三隅町に生まれる。亜細亜大学経営学部卒業後、父「保一」を師として手すき和紙製造に従事する。(社)島根県物産協会理事、(財)しまね国際センター経営委員など歴任。長年石州和紙の文化伝承に多大な貢献をされてきた。来年石州判紙が無形の世界文化遺産に登録されるにあたり、そのまとめ役をされた。



○黒木啓良(くろきひろよし)氏 1990年通商産業省近畿通商産業局入局(現:経済産業省近畿経済産業局)、2004年大阪市立大学大学院創造都市研究科(都市ビジネス専攻)に入学・2006年修了。現在、近畿経済産業局コンテンツ産業支援室に所属し、コンテンツビジネス推進を担当。



○近勝彦(コーディネータ) 小樽商科大学・島根県立大学などを経て、現在、大阪市立大学大学院創造都市研究科・教授。研究テーマは、情報投資の理論やコンテンツの経済的価値分析など。コンテンツに関しては、デジタルコンテンツの多面的な活用による地域活性化を構想し社会実験を重ねている。著書に『IT資本論』『web 2.0の成功学』など多数。